

令和6年11月14日

白老町議会
議長 小西 秀延 様

白老町議会産業厚生常任委員会
委員長 森 哲也 印

派遣結果報告書

日時（期間）	自 令和6年10月30日（水） 至 令和6年11月 1日（金）（2泊3日）
目的地	1. 群馬県利根郡川場村 2. 茨城県猿島郡境町 3. 東京都豊島区巢鴨地蔵通り商店街 品川区戸越銀座商店街
派遣者	委員長 森 哲也 副委員長 飛島 親宜 委員 水口 光盛、田上 治彦、氏家 裕治 前田 弘幹、西田 祐子
調査事項	1. 健康むらづくりの事業の取組について 2. 子育て支援・英語教育の取組について 3. 商店街活性化の取組について
視察の成果 （具体的に）	別紙のとおり

※ 必要の都度、写真その他を添付すること。

1. 健康むらづくりの事業の取組について

【視察先】群馬県利根郡川場村

- ・川場村役場
- ・道の駅川場田園プラザ

【川場村について】

川場村は、武尊山の南麓に広がる自然が豊かな農山村である。村では主産業である農業と観光に環境を合わせた村づくりが推進されている。

また、東京都世田谷区と「緑組協定」により都市と農村の交流事業が40年以上続いており、文化・教育・スポーツ・産業・福祉など各分野において、行政から村民、世田谷区民同士の交流へと発展している。



【川場村のむらづくりについて】

昭和40年から50年代に人口が減少し、村存亡の危機感があり、それまでの基幹産業である農業に観光を加えたむらづくりが推進された。

取組内容として、1977年にホテルS L事業、1980年代以降はスポーツ施設（テニスコート、キャンプ場など）が整備されてきた。

また、都市交流事業として1981年に東京都世田谷区と「区民健康村相互協力協定」を調印し、里山小学校、物販販売、移動教室など現在に至るまで様々な交流事業が実施され、積極的に交流が展開されてきた。

現在では、川場村の人口は約3,500人だが、年間約250万人の観光客が訪れている。

【道の駅川場田園プラザについて】

田園プラザ事業として村の総合計画に基づき整備されており、村の情報発信拠点機能、農作物の消費拡大、村内消費の拡大、災害時避難施設機能など様々な目的と多機能性を備えた施設となっている。

平成4年に整備を開始し、平成10年に開設した。事業規模は31億4千万円で、開設以降も機能向上とニーズに対応するため、増設・リニューアルを継続している。



運営は第三セクター(株)田園プラザ川場が指定管理で行っており、従業員数は社員60名、パート約100名、令和5年の年間売上高は20億円、来場者数は270万人となっている。

【まとめ】

道の駅川場田園プラザは、立地的に交通量が多い地域ではないが、雑誌の道の駅ランキングで上位になりメディアで取り上げられることも多く、平日でも駐車場がほぼ満車になる道の駅である。首都圏から約100分の立地から、世田谷区との交流事業を積極的に実施し、田園風景が続く自然環境を活かした村づくりを感じることができた。

また、多世代の滞在を目的とした施設整備や防災拠点としての整備等を総合計画に基づき実施しており、村の発展の中核となる施設である印象を受けた。

道の駅は、道路利用者や地域の人のための休憩・情報発信・地域の連携機能の3つの機能を併せ持つ施設とされている。北海道内でも道の駅の閉鎖や赤字運営の施設がある。まちの活性化につながる道の駅にするためには、3つの機能以外にも、自然環境を活かすことや多機能化等が重要であると感じ、今後道の駅を議論する際の参考になった。

2. 子育て支援・英語教育の取組について

【視察先】茨城県猿島郡境町

- ・ さかい子育て支援センター
- ・ 自動運転バスほか町内各施設

【境町について】

境町は利根川と江戸川の分岐点に位置し、利根川随一の河岸のまちとして栄えてきた。水運の拠点、日光東街道の宿場町という2つの性格を持ち、交通の重要な地点として栄え、人や物資の集散を通じて文化交流の場であった。

平成29年に都心から40～60キロメートルを環状に連絡する全長約300キロメートルの高規格幹線道路・圏央道茨城區間全線開通に伴い、都市圏からのアクセスが向上した。



【境町のまちづくりについて】

平成25年度の財政状況は、当時の町の貯金（財政調整基金やふるさと納税などの基金）7.1億円に対し、借金（地方債残高）は171.9億円で、将来負担比率は184.1%と北関東104市町村中ワースト1位の状況であり、何も対策をしないと財政破綻する可能性があった。

このことから、新たな財源の確保として、ふるさと納税や補助金などの獲得や、コスト感覚の見直しとして電力自由化を契機とした電気代削減やパソコンの買換え内容を見直すなど経費を削減し、財政再建の取組を実施した。その結果、令和4年度の財政状況は貯金43.1億円、借金150.6億円、将来負担比率65.0%と財政を再建し、様々な新規事業に取り組んでいる。

【子育て支援・英語教育について】

境町は、「子育ていいとこ境町」をキャッチコピーに、20歳の学生まで医療費無料、第2子以降の保育料無料、給食費無料など様々な支援事業を実施している。

また、全ての子供が英語を話せる町を目指し、全小中学校・公設保育園では先進英語教育が無料で受けられる。ほかにも全小中学校に複数のフィリピン人英語講師常駐や英検受験料無料など先進的な英語教育が実施されており、子育て世代の移住を後押しする施策となっている。



自動運転バスで子育て支援センターへ

【まとめ】

境町は、子育て支援日本一を目指し数多くの先進的事業を実施しており、その一環として、スーパーグローバルスクール事業（英語教育）が実施されている。子育て支援が視察の目的であったが、施策を充実させるためには財政の重要性和、民間と連携しスピード感を持って実行することの重要性を学ぶことができた。

ふるさと納税の活用や、まちづくり公社を最大限活用し利益の上がる事業にスピード感を持って積極的に取り組んでいることが特徴的であった。多くのハード整備を実施していたが、まちの借金は減少していることに驚いた。

重大な事業を実施するときは、議員全員が視察した上で議論する取組を実施しており、新たな案件に対する議会への説明責任をしっかりと果たし、議会への説明イコール町民への説明となり、行政に対して多くの住民が関心を持つことにつながっていると感じた。

3. 活性化の取組について

【視察先】・東京都豊島区巣鴨地藏通り商店街
・東京都品川区戸越銀座商店街

【商店街の状況について】

どちらの商店街も歴史があり、昭和の雰囲気を残しつつも新しいお店も軒を連ね、地域に根差した活気溢れる商店街であった。

また、頻繁にメディアで取り上げられていることもあり、観光客と思われる方も多く見られたが、商店街の裏通りには住宅街があり、どの店も安く、住民の台所に寄り添っている印象を受けた。

【まとめ】

商店街周辺は発展した都会の町並みだが、両商店街には昭和を感じさせる雰囲気があり、観光客だけでなく、地元住民も日常的に訪れている様子で活気があった。

商店街の活性化のためにイベントを実施し、新たな顧客層を開拓している点が、今後町内の商店街活性化を考えていくうえで参考になった。

